九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Comparative Study of Myxofibrosarcoma With Undifferentiated Pleomorphic Sarcoma:Histopathologic and Clinicopathologic Review

吉本, 昌人

https://hdl.handle.net/2324/4060037

出版情報：Kyushu University, 2019, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏　　名：　吉　本　昌　人

論　文　名：**Comparative Study of Myxofibrosarcoma With Undifferentiated Pleomorphic Sarcoma: *Histopathologic and Clinicopathologic Review***
（粘液線維肉腫と未分化多形肉腫の比較研究：病理組織学的、臨床病理学再検討）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

粘液線維肉腫は豊富な粘液間質を有する悪性線維芽/筋線維芽細胞性腫瘍である。頻回に局所再発し、時として遠隔転移を起こすといった臨床的特徴をもつ。形態学的に、特に高悪性度粘液線維肉腫が未分化多形肉腫との区別が難しい場合がある。本研究では、162 例の粘液線維肉腫と 43 例の未分化多形肉腫の臨床情報及び組織学的データを再検討した。粘液領域の割合 10%を基準値として、粘液線維肉腫と未分化多形肉腫を区別した。全体として、52 例(34.4%)の粘液線維肉腫と 9 例(20.9%)の未分化多形肉腫が局所再発し、18 例(12.2%)の粘液線維肉腫と 19 例(44.2%)の未分化多形肉腫が遠隔転移し、13 例(9.5%)の粘液線維肉腫と 13 例(9.5%)の未分化多形肉腫が腫瘍関連死していた。統計学的には、粘液線維肉腫の方が未分化多形肉腫より予後良好であった。さらに、より粘液領域が少ない粘液線維肉腫は予後不良の傾向がみられた。FNCLCC grade は、統計学的に有意に予後と相関していた (遠隔転移:p=0.0021, 腫瘍関連死:p=0.0021)。細胞密度と核異型のみ、統計学的に予後不良の傾向がみられた。粘液領域が 10%未満になり、未分化多形肉腫様に形態変換された粘液線維肉腫の全生存率は、未分化多形肉腫の全生存率に近接していた。粘液線維肉腫は分子生物学的に未分化多形肉腫と異なる腫瘍であると考えられ、より粘液が少ない粘液線維肉腫はより予後不良の傾向を示した。我々は粘液量、細胞密度、核異型が予後因子として重要であると考えた。粘液線維肉腫は局所再発を介して、形態学的及び生物学的観点から未分化多形肉腫の組織学的悪性度に類似する可能性がある。